

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月14日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2009～2011

課題番号：21242008

研究課題名（和文） ヴォルガ文化圏とその表象をめぐる総合的研究

研究課題名（英文） A Comprehensive Study of the Volga as a Cultural Area and Her Images

研究代表者

望月 哲男（MOCHIZUKI TETSUO）

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号：90166330

研究成果の概要（和文）：

ヴォルガ地域の文化的な様態を、各流域の民族・宗教文化的特徴、および中世期から現代までの複雑な歴史的経緯を踏まえて整理し、包括的文化圏としてのヴォルガ地域像を解明した。ヴォルガ河の表象にみられる多義性・多面性とその変遷を、18世紀以降の文芸の諸ジャンルにおいて検討し、その特徴や文化的機能を分析した。近現代の宗教・文化思想を題材に、東西文化論におけるヴォルガ地域の特徴と機能を整理した。

研究成果の概要（英文）：

Results of the research project “A Comprehensive Study of the Volga as a Cultural Area and Her Images” include: Characterization of the cultural aspects of the Volga region in terms of its multi-ethnic condition as well as complicated medieval and modern history; Comparative analysis of the specificity and cultural function of the images of the Volga in various genres of modern literature and art; Definition of the uniqueness and special function of the Volga region in modern religious and cultural ideologies.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	6,100,000	1,830,000	7,930,000
2010年度	6,100,000	1,830,000	7,930,000
2011年度	5,900,000	1,770,000	7,670,000
年度			
年度			
総計	18,100,000	5,430,000	23,530,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学(英文学を除く)

キーワード：ロシア文化、河川文化圏、ヴォルガ、東西文化論、空間表象

1. 研究開始当初の背景

巨大な河川国家であるロシアにおいて、ヴォルガ河は政治・経済・生活・文化の諸側面で重要な機能を果たしてきた。ヴォルガ河の自然風土を含む諸特徴については、豊富な研究が蓄積されているが、その文化圏としての意味と文化表象における特徴については、従来包括的な研究が不在であった。本研究はその研究史上の課題に挑戦する試みである。

2. 研究の目的

ロシアにおける河川と文化の係わり合いの多層的・多義的な様相を解明する作業の一環として、ヴォルガ河の文化的機能、およびその表象のあり方を現代文化学・文芸学の観点から総合的に研究することを目的とする。柱となる研究視点は以下の通り。

(1) 文化生成の場としてのヴォルガ流域：
ヴォルガ流域を文化の対抗と対話の場と捉え、この地方の地理・民族学的な背景、歴史・

社会的な特徴、言語・宗教上の様相を解明、ヴォルガ流域の文化圏としての特質を解明する。さらに、ヴォルガ流域で生成、展開された文化が、ロシア帝国、ソ連、および現代のロシア社会に果たしてきた役割を解明する。

(2) ヴォルガ・イメージの多義性と機能：ヴォルガ流域を生活圏とした諸民族の表現文化におけるヴォルガ表象の特徴を、時代ごとに比較分析する。分析対象にはフォークロア、文学、美術、音楽、映画、記念碑などの諸ジャンルが含まれる。

(3) 東西文化論にとってのヴォルガ：ヨーロッパとアジアの境界を流れ複数の民族の混住するヴォルガ地域は、東西文明圏に関するイデオロギー的な議論にも役割を果たしてきた。ロシアにおけるスラブ主義やユーラシア主義を含め、東西文明論の中でのヴォルガの位置づけを検討する。

3. 研究の方法

(1) 時代史・地域区分に添った研究：

19世紀中期までのロシア帝政期、大改革期から革命期まで、ソ連期から現代までという大きな時代区分を設定、各年度の中心テーマを過去から現代へと展開する形で研究を設計する。また、現地調査の展開においてもヴォルガ上流（オカ川との合流点まで）、中流（サマラ川との合流点まで）、下流（以下カスピ海まで）という地域区分を意識しながら、ヴォルガの全域が展望できる研究を行う。

(2) 融合型の効率的な研究：

歴史、政治、宗教、フォークロア、社会学、言語学、文学、美術、舞台芸術、映画、音楽、思想など複数の分野にまたがる融合型研究を効率的に進めるために、用語集や基本スキーム集などの共通ツールを作り、相互理解の深化を図る。また、文献・資料研究とフィールドワークを合理的に組み合わせ、各自が正確な対象地域理解を得られるようにする。

(3) 国際的協力研究：

現地でのフィールドワークや研究会などを通じて研究対象地域およびそれ以外の地域の専門家、研究施設との研究協力を推し進め、成果も国際的な場で発表する。

4. 研究成果

(1) 歴史的経緯の解明：中世期まではロシア国家のフロントとして、諸民族との闘争の舞台となり、近代においてはヨーロッパ・ロシアを取り囲む環として経済的・政治的に中心を支えてきたヴォルガ地域は、時代によってそのアイデンティティを変えてきた。本研究チームはヴォルガの上流域、中流域、下流域の調査をつうじて、ヴォルガがロシアの母なる川としてのアイデンティティを形成する過程を輪郭づけた。（下記松里論文(2010)、長

縄論文(2012)、鳥山論文(2012)、下記論文集『文化空間としてのヴォルガ』中三浦論文など）

(2) ヴォルガ・イメージの動態：19世紀以降の近代文芸を題材として、ヴォルガの文化的表象の変貌・展開ぶりを、社会史・文化史・特に反乱や戦争の歴史との関連で分析し、ロシア文化史の中のヴォルガ・イメージの動態を跡づけた。（下記後藤論文(2010)、望月論文(2010,2011,2012)、中村論文(2012)、鈴木論文(2012)、下記論文集『文化空間としてのヴォルガ』中熊野谷論文、長谷川論文など）

(3) 東西文化の中のヴォルガの場：ヴォルガは歴史上も現在も複数の文明圏の接点であり、文化の交わる場である。本研究チームはこの地域におけるロシア正教をはじめとする宗教文化の歴史と現状を中心にフィールドワークを行い、ヴォルガ文化圏の比較文化的分析を試みた。その結果、この地域の文化的混住の様態が明らかになると同時に、現代の国際文化環境への様々な適応の戦略が見いだされた。その成果はまだ総合的にはとりまとめられていないが、以下の形でその素材が蓄積されている。

下記長縄論文(2009)、後藤論文(2010)。下記論文集『文化空間としてのヴォルガ』中桜間論文、井上論文。

ヴォルガ地域調査旅行記録集：

<http://volga.jp/fieldwork/fieldwork.html>

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計68件）

①望月哲男、三つのヴォルガ像：1856年の文人調査旅行から、文化空間としてのヴォルガ、スラブ・ユーラシア研究報告集、第4号、2012年、69-104、査読なし。

②鈴木正美、ヴォルガの視覚表象：絵はがきと風景写真、映画『ヴォルガ、ヴォルガ』から現代アート、文化空間としてのヴォルガ、スラブ・ユーラシア研究報告集、第4号、2012年、139-155、査読なし。

③鳥山祐介、エカテリーナ期－ナポレオン戦争期のロシア詩の中のヴォルガ、文化空間としてのヴォルガ、スラブ・ユーラシア研究報告集、第4号、2012年、35-67、査読なし。

④長縄宣博、Holidays in Kazan: The Public Sphere and the Politics of Religious Authority among Tatars in 1914、Slavic Review、vol.71、2012年、25-48、査読あり。

⑤中村唯史、ゴーストの自伝的作品におけるヴォルガの印象の薄さについて、文化空間としてのヴォルガ、スラブ・ユーラシア研究報告集、第4号、2012年、119-126、査読なし。

⑥望月哲男、19世紀ロシア文学のヴォルガ表象：アポロン・グリゴリエフ『ヴォルガをさかのぼって』を中心に、境界研究、No.2、2011年、65-83、査読あり。

⑦ Тэцуо Мотидзуки(望月哲男)、Литература как музей: творчество Вл. Сорокина и визуальная память России, Boris Lanin & Tetsuo Mochizuki (eds), *Sorokiniada: Eurasia Talks about Sorokin. Comparative Studies on regional Powers*, No.5、2010年11月、33-41、査読なし。

⑧後藤正憲、チュヴァシの口碑におけるヴォルガの表象—歴史の記憶と想像についての考察、北方人文研究、第3巻、2010年、1-14、査読あり。

⑨ Kimitaka Matsuzato、Cultural Geopolitics and the New Border Regions of Eurasia, *Journal of Eurasian Studies*, Vol.1、2010年、42-53、査読あり。

⑩ Масанори Гото (後藤正憲)、Представление о Волге в чувашской народной словесности、Региональные особенности аграрных отношений в России: История и современность、2010年、240-245、査読なし。

⑪長縄宣博、帝政ロシア末期のワクフ：ヴォルガ・ウラル地域と西シベリアを中心に、イスラム世界、第73号、2009年、1-27、査読あり。

[学会発表] (計73件)

①鳥山祐介、Images of the Volga river in Russian poetry from the reign of Catherine II through the Napoleonic Wars, Study Group on Eighteenth-Century Russia、2012年1月5日、High Leigh Conference Centre, Hoddesdon (United Kingdom)

②鳥山祐介、共通論題「啓蒙と専制」：「18世紀末-19世紀初頭のロシアにおける風景表象の様式、日本ロシア史研究会(招待講演)、2011年10月17日、立教大学池袋キャンパス(東京都)

③鳥山祐介、Образы Волги и Невы в русской поэзии времен Наполеоновской войны、3rd East Asian Conference for Slavic Eurasian Studies、2011年8月28日、Landmark Hotel (Beijing)

④長縄宣博、The War on Pan-Islamism in the Multi-Confessional Setting of Russia's Volga-Urals Region 1905-1917、IAS 3rd International Conference: New Horizons in Islamic Area Studies、2010年12月18日、京都国際会議場(京都府)

⑤Масанори Гото(後藤正憲)、Взаимные отражения и присвоения своего образа между язычеством и христианством в Чувашии、Международная

тюркологическая конференция «Чувашский язык и этнос в истории евразийской цивилизации»(招待講演)、2010年9月17日、チュヴァシ国立大学(チェボクサルイ市、ロシア)

⑥長縄宣博、An Embryo of Civil Society? Philanthropy and War among the Muslims in the Volga-Urals Region、国際中欧・東欧研究協議会(ICCEES)第8回世界大会、2010年7月27日、ストックホルム市庁舎(スウェーデン)

⑦長縄宣博、Политика благонадежности: борьба с панисламизмом и ее последствия в многоконфессиональном Волго-уральском регионе, 1905-1917, Исповеди в зеркале: межконфессиональные отношения в центре Евразии, на примере Волго-Уральского региона (XVIII-XXI вв.) (招待講演)、2010年5月27日、State University of Linguistics (ニジニ・ノヴゴロド、ロシア)

⑧長縄宣博、帝国とイスラーム・ネットワーク：欧露のムスリムの場合(19世紀後半から20世紀初頭)、比較教育社会史研究会2010年春季大会、2010年3月27日、同志社大学今出川キャンパス(京都府)

⑨鳥山祐介、エカテリーナ期—ナポレオン戦争期のロシア詩の中のヴォルガ、スラブ研究センター客員研究員セミナー、2010年3月17日、北海道大学スラブ研究センター(札幌市)

⑩ Тэцуо Мотидзуки(望月哲男)、Образ Волги в русской литературе: Поэма «Вверх по Волге» Аполлона Григорьева、東アジア・スラブ・ユーラシア学会、2010年3月4日、Hotel Seoul Kyo Yuk MunHwa HoeKwan (Korea)

⑪ NAKAMURA Tadashi、Maksim Gorky's Representation of Volga as an Axis of Russia/Rus'、東アジア・スラブ・ユーラシア学会、2010年3月4日、Hotel Seoul Kyo Yuk MunHwa HoeKwan (Korea)

⑫ Go Koshino、Ladies Thrown into Volga: Literary Image of Sten'ka Razin、東アジア・スラブ・ユーラシア学会、2010年3月4日、Hotel Seoul Kyo Yuk MunHwa HoeKwan (Korea)

⑬鳥山祐介、18世紀末～ナポレオン戦争期のロシア詩におけるヴォルガ表象、ロシア文化研究会合同研修『ヴォルガ／ロシア』プログラム、2010年2月21日、海外職業訓練協会研修施設(OVTA)(千葉県)

⑭後藤正憲、Представление о Волге в чувашской народной словесности、Всероссийская научно-практическая конференция "Региональные

особенности аграрных отношений в России: история и современность", 2009年10月8日, Чувашский государственный институт гуманитарных наук (ロシア、チェボクサルィ市)

〔図書〕(計19件)

①望月哲男・前田しほ(共編)、文化空間としてのヴォルガ、スラブ・ユーラシア研究報告集第4号、北海道大学スラブ研究センター、2012年3月、175p.

<http://volga.jp/publishing/publishing.html>

②長縄宣博、D.M. Usmanova、濱本真実編著、Волго-Уральский регион в имперском пространстве: XVIII-XX вв.、ロシア科学アカデミー出版社「Vostochnaia Literatura」、2011年、343p.

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://volga.jp/report/report.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

望月 哲男 (MOCHIZUKI TETSUO)
北海道大学・スラブ研究センター・教授
研究者番号：90166330

(2)研究分担者

越野 剛 (KOSHINO GO)
北海道大学・スラブ研究センター・助教
研究者番号：90513242

後藤 正憲 (GOTO MASANORI)
北海道大学・スラブ研究センター・助教
研究者番号：70435949

鈴木 正美 (SUZUKI MASAMI)
新潟大学・人文学部・教授
研究者番号：10326621

鳥山 祐介 (TORIYAMA YUSUKE)
千葉大学・文学部・准教授
研究者番号：40466694

長縄 宣博 (NAGANAWA NORIHIRO)
北海道大学・スラブ研究センター・准教授
研究者番号：30451389

中村 唯史 (NAKAMURA TADASHI)
山形大学・人文学部・准教授

研究者番号：20250962

沼野 充義 (NUMANO MITSUYOSHI)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：40180690

野町 素己 (NOMACHI MOTOKI)
北海道大学・スラブ研究センター・准教授
研究者番号：50513256

松里 公孝 (MATSUZATO KIMITAKA)
北海道大学・スラブ研究センター・教授
研究者番号：20240640